

# 咲き誇れ秋田

日銀秋田支店長の目

「キツネはなんて鳴くの？」

最近、このタイトルの曲に合わせて、北海道日本ハムファイターズのチアリーディングチームが踊る「きつねダンス」が、動画投稿アプリで若者を中心に大人気となっている。こうした面白い話題が出てくると、そろそろ感染症も終息かと期待したのだが、よく考えれば、相手は化かすのがうまいキツネである。

このごろの罹患者数の増加をみると、やっぱりキツネだからか、と思ってしまう。このように、キツネというのは、昔から田や畑の守り神である稲荷神のお使いとしてあがめ奉られる一方、化けて人間をだます悪賢い動物というイメージも強い。実は、最近の経済情勢をみると、「きつねダンス」が流行する前からキツネにつままれるよ

## キツネの仕業？

うな、意外なことがいろいろと起きている。

例えば、世界各地で起きているモノの値段が上がる現象を示す「インフレ」。元は1年前の

ちょうど今頃、日本よりも早くアフターコロナに移行した欧米で、人々がこれまで我慢していたモノの購買やレジャー需要が爆発し、モノなどの値段が上昇したことがきっかけだった。一般にモノの値段が上昇する

り、特に米国では最近になってインフレがもう一段階加速するなど、信じられない状況となっている。

そもそも私自身、インフレの時代がこんなに早く来るとは思ってもみなかった。つい最近まで、どうやったらモノの値段が下落する「デフレ」から脱却できるのか、その手法を巡り真剣に議論していたはずなのに。

実は、ここ秋田でもキツネに

ものではないため、厳密に結果を比較することはできない。ただ、全国的な大きな流れを理解しようと各支店の集計結果をみると、驚いた。

私が注目したのは売上高である。2022年度計画まで、3年連続で毎年プラス5%を上回る増収計画となっているのは、全国の支店を見渡しても当店のみ。ここ2年に限れば連続してプラス10%を上回るといって、今

企業の動きも貢献している。例えば、木材関連は最近の資材価格上昇で大幅増収となる元気な企業が出てきている。

また、秋田から企業や人がどんどん県外へ流出していくというニュースに慣れている皆さんには意外かもしれないが、本部機能を秋田に集約する動きがここところ盛んになっていることも一因である。

## 全国有数の増収計画

と、購買意欲は落ち着いてくるため、インフレは一時的ですぐに収まると誰もが思っていた。ところが実際は、1年たっても収まるどころか世界的に広が

つままれるようなことが起きています。それは本店が先日発表した秋田県内短観（県内企業短期経済観測調査）で判明した。この短観は県内約150社の協力

の下、企業の景気に対する見方のほか、売上高や経常利益、設備投資などを聴取し、当店で集計しているものである。

同じ集計は全国32の日銀支店でも行っているが、調査先が各地の産業構造と完全に合致する

の日本ではありえないような増収計画となっているのが、甲府支店と熊本支店、そして当店であった。なお、遡及可能な1989年度以降のデータでみると、本店でこれまでの大幅な増収が続くのは初めてのことである。

これら3支店に共通するのは、主力の電子デバイス関連の好調さであるが、当地ではそれ以外の業種や、これまでと違っ

た。正直に言えば、秋田支店管内でここまで売上げが大幅に増加するとは夢にも思っていなかった。これもキツネの仕業かと思う反面、当地企業の皆さんの努力で正夢になれば、秋田は全国でも注目される活気ある街になる。そうなれば、魅力に引きつけられて人も集まってくる。

私が当地に着任した2021年度から続く、この快進撃。私たちが「キツネじゃないか」と言われないよう、皆さんと頑張ることによろ。

（真鍋隆・日本銀行秋田支店長）

〈随時掲載〉

